

**FUJIFILM**

---

## 2008年度 第2四半期 決算説明会

---

(2008年4月～9月)

富士フイルム ホールディングス株式会社  
2008年10月30日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

## 2008年度第2四半期連結業績（累計）

FUJIFILM

世界的な景気減速や為替円高の影響等により、減収減益

(単位:億円)

	2007年度 上期		2008年度 上期		増減	
					金額	%
売上高	100.0%	14,080	100.0%	13,384	-696	-4.9
営業利益*	7.7%	1,086	6.1%	812	-274	-25.2
税金等調整前 四半期純利益	8.2%	1,147	6.1%	817	-330	-28.8
四半期純利益	4.6%	646	3.4%	453	-193	-29.8
1株当たり 四半期純利益		126.48円		89.97円		-36.51円
為替:米ドル		119円		106円		-13円
ユーロ		162円		163円		+1円

■ <参考> 営業利益増減要因(対07年度上期):

(単位:億円)

為替影響 ▲109 原材料価格上昇 ▲115 減価償却方法変更 ▲30 販売増減他 ▲20

\*構造改革費用(含S&S費用)07年度上期 43億円、08年度上期 41億円を含む

1

売上高につきましては、1兆3,384億円、前年同期比4.9%減となりました。

為替が対米ドルを中心に円高となったこと、また、イメージングソリューション部門の売上が減少したことが主な減収要因です。

減収額696億円に占める為替円高影響額は約502億円です。

営業利益は、812億円(前年同期比 25.2%減)となりました。前年同期比274億円の減益要因は、為替円高影響109億円、銀・アルミをはじめとする主要原材料価格の高騰影響115億円、昨年度実施した減価償却方法変更影響30億円が主なもので、これらを合わせて254億円の影響がありました。

税金等調整前純利益は、817億円(前年同期比28.8%減)、純利益は、453億円(前年同期比29.8%減)と減益となりました。

累計期間の為替レートは、対米ドル106円、対ユーロ163円となりました。

## ■ イメージング ソリューション

### 売上高\*・営業利益

■ 売上高  
■ 営業利益

単位: 億円  
□: 営業利益率  
( ): 前年比

#### 売上高

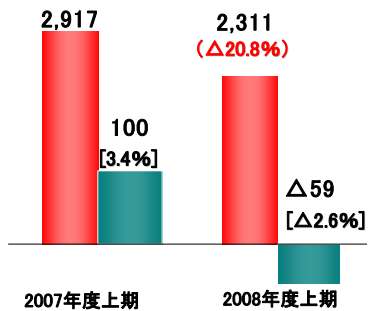
2,311億円(前年比 20.8%減)

- カラーフィルムの市場縮小に加え、単価下落によりデジタルカメラの売上も減少。
- 為替円高影響 (△135億円)

#### 営業利益

△59億円(前年比 赤字化)

- デジタルカメラの単価下落影響等により、減益。
- 銀価格の高止まり、為替円高影響も収益を圧迫。



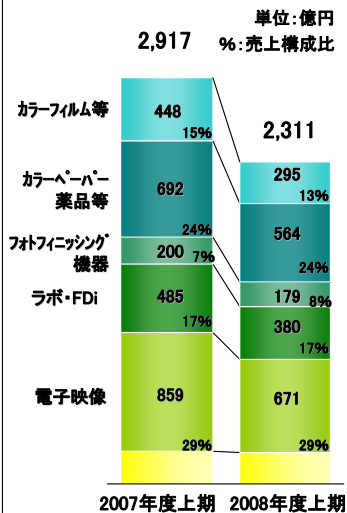
\*セグメント間取引消去後

イメージングソリューション部門についてご説明します。

カラーフィルムやデジタルミニラボの需要縮小、デジタルカメラの競争激化、及び、為替円高影響などにより、売上高は2,311億円、前年同期比20.8%減となりました。

当部門は、銀など原材料価格の高騰に加え、為替円高影響やデジタルカメラの価格下落など厳しい事業環境の影響を受け、59億円の営業損失となりました。

## サブセグメント売上高



**カラーフィルム等** 295億円 (前年比: 34%減)

- 市場縮小による売上減少が継続。

**カラーペーパー・薬品等** 564億円 (前年比: 19%減)

- 他社との競争が激化する中、フォトブックなど付加価値プリントの拡販等により当社シェアアップを図る。

**フォトフィニッシング機器** 179億円 (前年比: 10%減)

- 北米で展開するインクジェットドライミラボの販売が着実に増加。

**電子映像** 671億円 (前年比: 22%減)

- 上期のデジタルカメラ販売台数は、ワールドワイドで430万台。国内では、FinePix「F100fd」など高画質機中心に販売数量は堅調に推移。北米では、需要減速傾向の中、低価格帯スタイリッシュ機を中心に販売数量は伸長。
- 単価下落の影響を受け、売上高は減少。

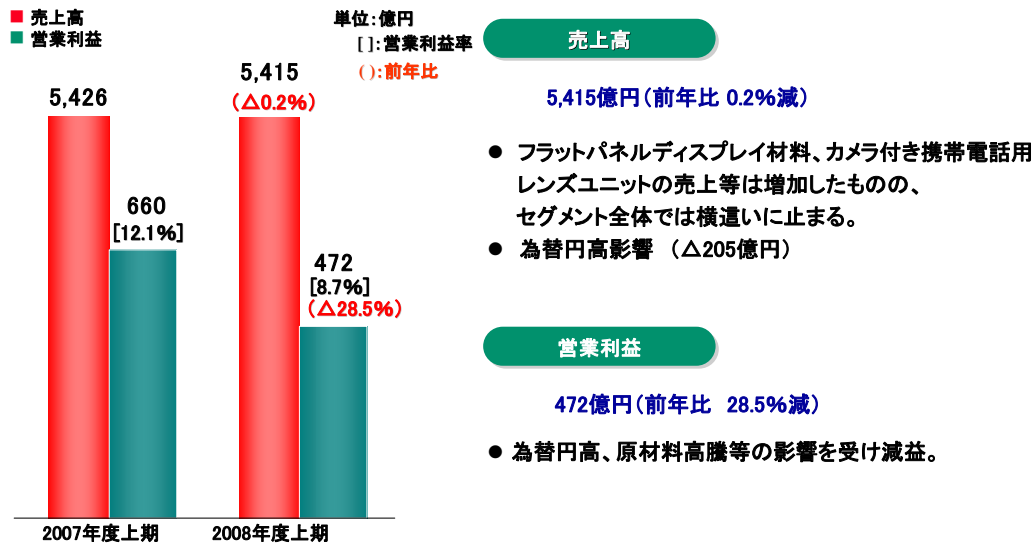
イメージングソリューションの各事業の状況はご覧の通りとなっています。

カラーペーパーにつきましては、主要国での拡販を進めておりますが、価格競争の激化や円高影響などにより、売上高は減少しました。引き続き、付加価値プリントの販売促進施策を強化していきます。

デジタルカメラは、在庫圧縮の一方、新製品の投入などで、国内、北米などで販売台数は堅調に推移しましたが、世界的な景気減速や競争激化による価格下落の影響を受けました。

## ■ インフォメーション ソリューション

### 売上高\*・営業利益



\*セグメント間取引消去後

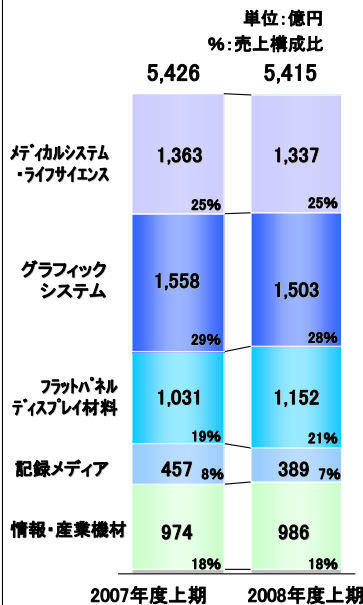
インフォメーションソリューション部門は、フラットパネルディスプレイ材料や、カメラ付携帯電話用レンズユニットの販売が好調な光学デバイスの売上は増加しましたが、売上高は5,415億円、前年比横這いとなりました。

当部門の営業利益は、472億円、前年同期比28.5%減となりました。為替円高影響、減価償却方法の変更影響やアルミ・銀などの原材料価格高騰の影響を除くとほぼ前年並みの利益となります。

## 事業別セグメント情報

FUJIFILM

### サブセグメント売上高



#### 医療システム・ライフサイエンス

1,337億円 (前年比: 2%減)

- 国内の診療報酬改定の影響により、フィルムの需要が減少するが、FCR機器、医用画像情報ネットワークシステムの販売は拡大。
- 内視鏡は、欧米で発売したハイビジョン内視鏡システム等の販売が堅調。国内では競争が激化する中、電子内視鏡システム「Justia」シリーズを発売。

#### グラフィックシステム

1,503億円 (前年比: 4%減)

- 米国・欧州では景気減速の影響を受けるが、堅調な国内需要や新興国での需要拡大により、CTPの販売数量は引き続き拡大。
- ワイドフォーマットインクジェット分野では、drupaでの受注好調等により売上が伸長。

#### フラットパネルディスプレイ材料

1,152億円 (前年比: 12%増)

- 液晶パネルメーカーの一時的な生産調整の影響はあるが、「フジタック」、及び「WVフィルム」等の高付加価値フィルムの売上は継続して拡大。

#### 記録メディア

389億円 (前年比: 15%減)

- エンタープライズ系データメディアは順調に販売数量を伸ばすが、為替影響等により、売上は減少。

#### 情報・産業機材

986億円 (前年比: 1%増)

- 光学デバイス分野でカメラ付き携帯電話用レンズユニットの売上が増加。
- 主要顧客の需要が増大し、産業用インクジェットプリンター用ヘッド売上が伸長。

5

インフォメーションソリューションの各事業の状況はご覧の通りです。

医療システム・ライフサイエンス事業は、国内の診療報酬改定の影響によりフィルムの需要が減少しましたが、開業医向け小型FCRや画像情報ネットワークシステムの販売が堅調に推移しました。

内視鏡製品は、海外は堅調に推移しましたが、国内は競争が激化しました。

機能性化粧品も、TVCM効果や販売チャネルの拡大などにより販売が大幅に拡大しました。

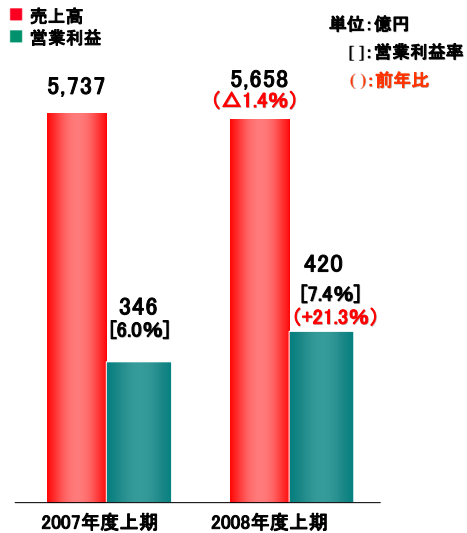
グラフィックシステム事業は、為替や欧米の景気減速の影響を受けましたが、ワイドフォーマットインクジェットシステムやCTPプレートは好調に推移しました。

フラットパネルディスプレイ材料事業は、8月頃からのパネルメーカーの生産調整の影響を受けましたが、フジタック、WVフィルムの売上は継続して拡大しました。

情報産業機材は、カメラ付き携帯電話用レンズユニットの売上が増加しました。

## ドキュメント ソリューション

### 売上高\*・営業利益



#### 売上高

5,658億円 (前年比 1.4%減)

- カラー機を中心に欧米向け輸出が好調に推移したものの、海外事業における為替変動に伴うマイナスインパクトの発生により減収
- 為替円高影響 (Δ162億円)

#### 営業利益

420億円 (前年比 21.3%増)

- 原価低減、販売費及び一般管理費の削減により大幅増益

\*セグメント間取引消去後

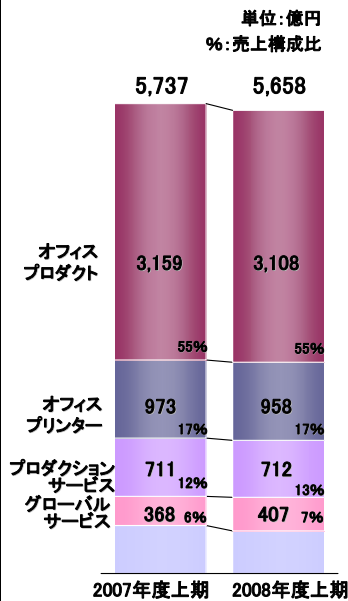
ドキュメントソリューション部門は、カラー機を中心に米ゼロックス社向け輸出が好調に推移しましたが、米ドル、アジア・オセアニア通貨の為替変動による影響などにより、売上高は5,658億円、前年同期比1.4%減となりました。

当部門の営業利益は、スリム&ストロング活動による原価改善、SG&A費の削減などの効果により、420億円、前年同期比21.3%増と大きく伸ばしました。

## 事業別セグメント情報

FUJIFILM

### サブセグメント売上高



**オフィスプロダクト** 3,108億円 (前年比: 2%減)

- 国内ではLEDプリントヘッド搭載のフルカラーデジタル複合機に加え、3月に発売した低価格のカラーデジタル複合機の販売が好調に推移。モノクロ機を中心に市場全体の需要が減少し、国内販売台数はやや減少。
- 欧米向け輸出、アジア・中国地域とも、カラー機の出荷、販売台数が大幅に増加。

**オフィスプリンター** 958億円 (前年比: 2%減)

- 国内市場全体の需要低迷により「DocuPrint C3050」、「DocuPrint G2250」を中心とした自社ブランドカラー機の販売台数がやや減少。
- 欧米向け輸出、アジア・中国地域ともにカラー機の出荷、販売台数が大幅に増加。

**プロダクションサービス** 712億円 (前年比: 横這い)

- 国内ではカラー、モノクロ機ともにバブリッシングシステム販売台数が増加。
- 欧米向け輸出でカラー・バブリッシングシステムの出荷台数が大幅に増加。

**グローバルサービス** 407億円 (前年比: 11%増)

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが国内外ともに引き続き伸長。

7

ドキュメントソリューションの各事業の状況はご覧の通りです。

オフィスプロダクト事業は、国内では、市場全体の需要が減少しましたが、LEDプリントヘッド搭載のフルカラーデジタル複合機など当社のカラー機の販売台数は増加しました。アジア・中国地域では、カラー機の好調な販売により販売台数は増加すると共に、米ゼロックス社向け輸出では、資源国及び新興国での需要増や米ゼロックス社での販売チャネル買収効果等により、カラー機・モノクロ機ともに出荷台数が大幅に増加しました。

オフィスプリンター事業は、国内では市場全体の需要が減少し、販売台数が減少しました。海外向けでは、販売・輸出ともにカラー機の出荷が大幅に増加しました。

プロダクションサービス事業は、ライトプロダクション・カラーシステム「700 Digital Color Press」の好調な立ち上がり等により、国内・海外向けともに出荷台数が大幅に増加しました。

グローバルサービス事業もドキュメントアウトソーシングビジネスが、国内外ともに引き続き伸長しました。

以上、2008年度第2四半期決算概況についてご説明いたしました。



■ 2008年度第2四半期 連結業績

(単位:億円)

	2007年度 第2四半期		2008年度 第2四半期		増減	
					金額	%
売上高	100.0%	7,197	100.0%	6,847	-350	-4.9
営業利益*	6.8%	488	5.2%	353	-135	-27.6
税金等調整前 四半期純利益	6.2%	447	3.9%	267	-180	-40.2
四半期純利益	3.3%	236	2.0%	134	-102	-43.2
1株当たり 四半期純利益		46.33円		26.66円		-19.67円
為替:米ドル		118円		108円		-10円
ユーロ		162円		162円		-

■ <参考> 営業利益増減要因(対07年度2Q):

(単位:億円)

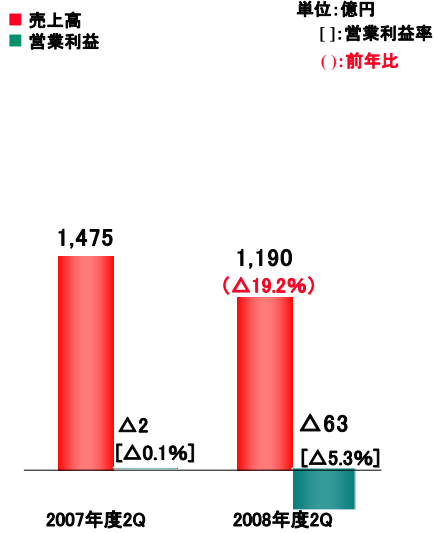
為替影響 ▲48                      原材料価格上昇 ▲77                      販売増減他 ▲10

\*構造改革(含S&S)費用 07年度2Q 33億円、08年度2Q 24億円 を含む

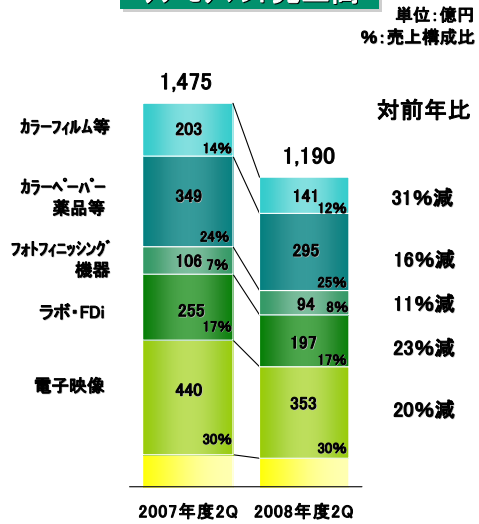
<当スライドは配付資料です>

■ イメージング ソリューション 第2四半期

売上高\*・営業利益



サブセグメント売上高

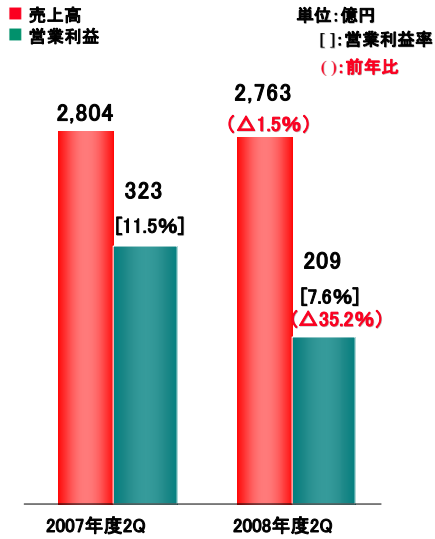


\*セグメント間取引消去後

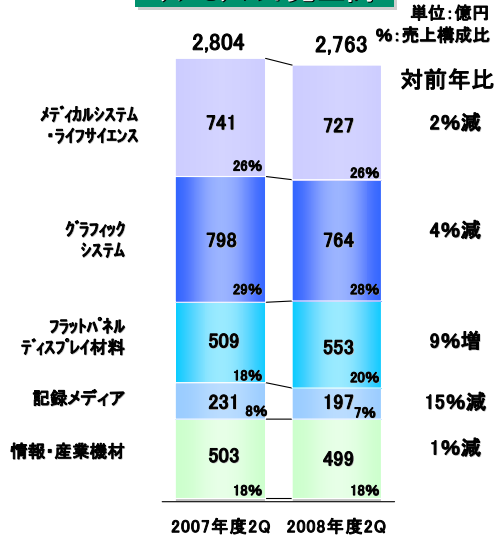
<当スライドは配付資料です>

■ インフォメーション ソリューション 第2四半期

売上高\*・営業利益



サブセグメント売上高

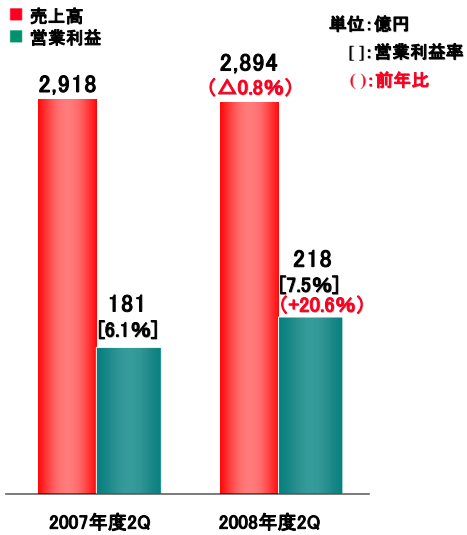


\*セグメント間取引消去後

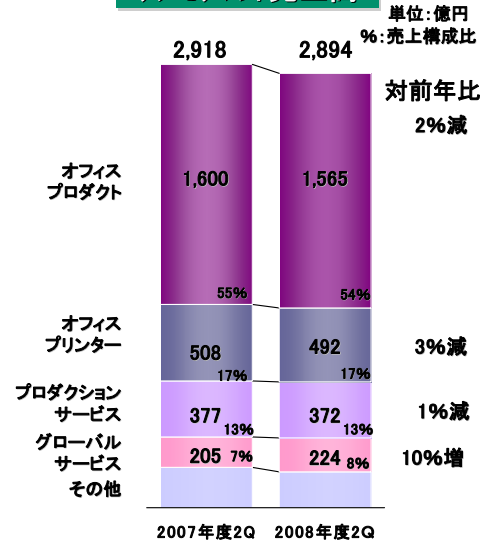
<当スライドは配付資料です>

■ドキュメント ソリューション 第2四半期

売上高\*・営業利益



サブセグメント売上高

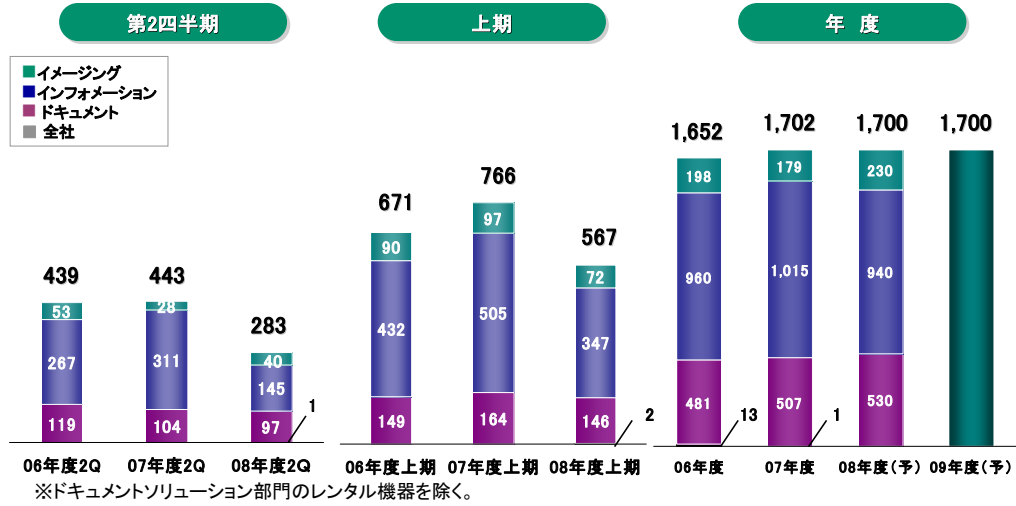


\*セグメント間取引消去後

<当スライドは配付資料です>

■ 有形固定資産の設備投資額\*

(単位:億円)

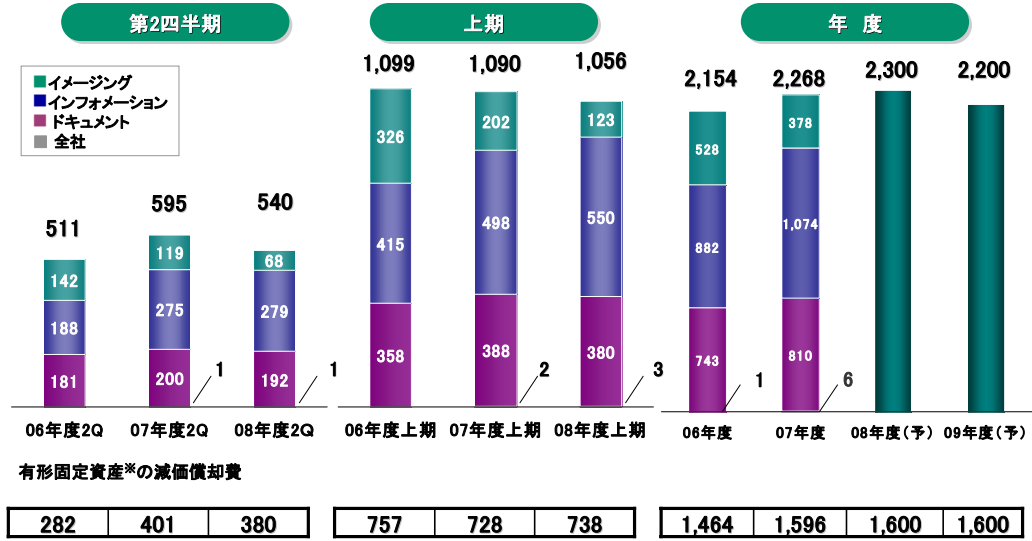


※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

<当スライドは配付資料です>

■ 減価償却費

(単位:億円)



※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

<当スライドは配付資料です>

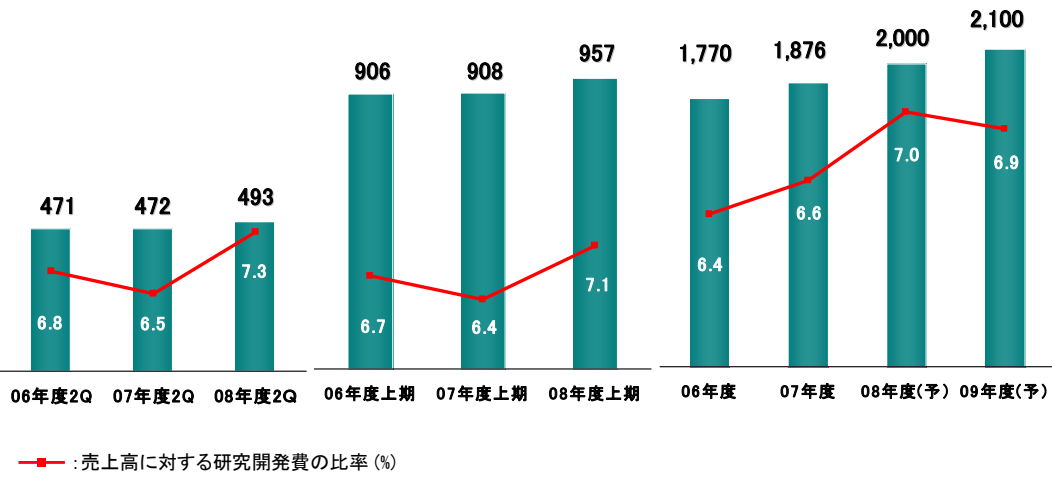
■ 研究開発費

(単位:億円)

第2四半期

上期

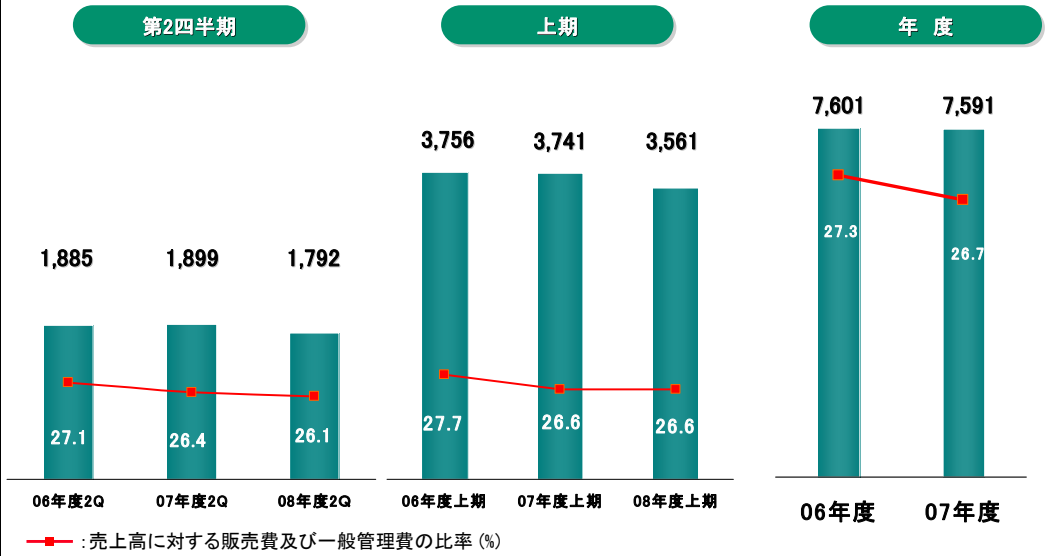
年度



<当スライドは配付資料です>

■ 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

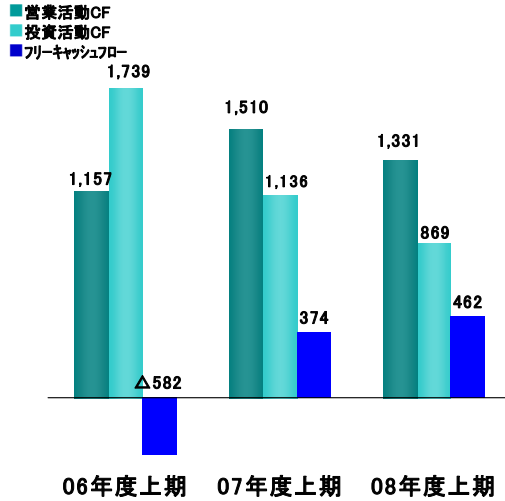


<当スライドは配付資料です>



■ フリーキャッシュフロー

(単位:億円)



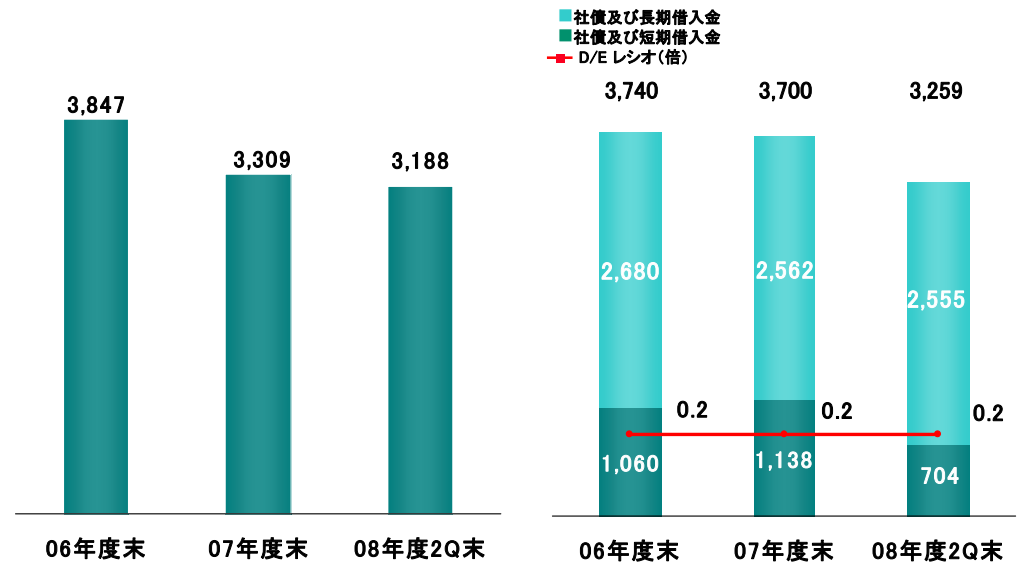
キャッシュフロー		
	07年度上期	08年度上期
四半期純利益	646	453
減価償却費	1,090	1,056
運転資本増減額	-201	-4
未払法人税等他負債の増減	-143	-387
その他	118	213
<b>営業活動によるCF</b>	<b>1,510</b>	<b>1,331</b>
設備投資	-785	-829
事業買収	-	-
その他	-351	-40
<b>投資活動によるCF</b>	<b>-1,136</b>	<b>-869</b>
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>374</b>	<b>462</b>

<当スライドは配付資料です>

■ 現金及び現金同等物

■ 有利子負債

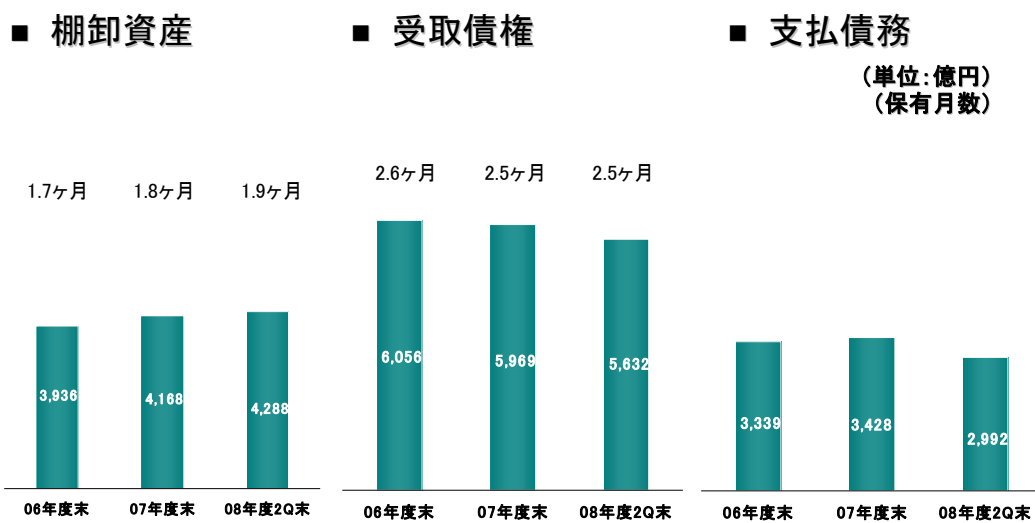
(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

## 参考データ

FUJIFILM



<当スライドは配付資料です>

■ 富山化学工業(株)新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域	開発段階					剤形
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	
T-614	抗リウマチ剤	日本						経口
T-3262 10% 細粒(オゼックス細 粒小児用10%)	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本	2008年10月製造販売承認申請					経口
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本						注射*
		米国						経口/注射
		欧州						
T-3762	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本						注射**
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国						経口
T-5224 (R7277)	抗リウマチ剤	日本						経口
		海外						
T-705	抗ウイルス剤	日本						経口
		米国						
T-1106	抗ウイルス剤	日本						経口
T-2307	抗真菌剤	日本						注射

\* 経口剤「ジェニナック錠」としては、2007年に承認済み

\*\* 2002年に承認済みの「パシル点滴静注液」の用量追加

<当スライドは配付資料です>

## 参考データ

FUJIFILM

### ■ 為替、人員、株主構成

#### ● 為替

(単位:円)

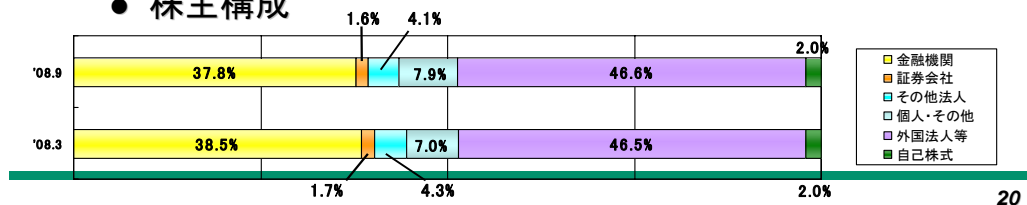
	2008年度			2007年度			
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	年度
米ドル	104	108	106	121	118	119	115
ユーロ	163	162	163	162	162	162	162

\* 為替感応度(年間/対営業利益) US\$ 12億円 ユーロ 11億円

#### ● 人員

	2008.9末	2008.6末	2008.3末	2007.12末	2007.9末
連結	78,228	78,765	78,321	78,008	77,555

#### ● 株主構成



<当スライドは配付資料です>

# FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、  
最高品質の商品やサービスを提供する事により、  
社会の文化・科学・技術・産業の発展、  
健康増進、環境保持に貢献し、  
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>